



珠算人生20年に寄せて

株式会社 SEcond 橋本 直幸

始めにお断りしておきます。私は「怖い人」などではありません。どこにでもいるような、しがないサラリーマンです。

私が珠算を始めたきっかけは「兄弟が習っていたから」。小学校入学直後、それ以外に特に強い動機もなく始めました。動機が弱いため、塾に行くのを面倒に思った時もありました。それでも塾内での実力は上の方で、栃木県内の大会では優勝争い常連。それなりに楽しんでいました（万年準優勝だったのは内緒です）。

中学生になり、同級生が辞めていくなかで、自分は特に辞める理由も無いため続けていました。最初は「もう少しやってみるか」という軽い感覚でしたが、しだいにもっと上のレベルを目指したいと思うようになりました。その後、高校2年生の時に別の連盟の（すみません…）暗算検定で九段を取得し、十段が目前ということもあり、まだまだ続けるぞ！という意思が固まりました。

高校卒業後は都内の大学に進学しましたが、上京はせず栃木からの通学生活。急いで帰って珠算塾に直行する日々を4年間続けました。上述の十段に合格できたのは、大学時代ではなく社会人2年目を目前にした3月のことでした。

ここまで来たら珠算も十段に、と意気込んで続けていましたが、本番に弱く何度やっても検定試験に合格できない自分が惨めになり、26歳の晩秋に思い切って一度引退しました。もう戻らないと心に固く誓ったはずが、何故だろう、そろばんを

弾かないとムズムズする…。1年半後、恩師である野澤先生に「もう一度やらせてください」とお願いに。お陰で、私の珠算人生は通算20年になりました。全国の先輩諸氏に比べればまだまだですが…。

以上の話から分かるように、私は志も高くなく、過去に寄稿されている方々のような高尚な人間ではありません。だから「しがないサラリーマン」なのです。しかし、もっと早い段階で珠算を辞めていたとしたら、ここまで来られなかったことも事実です。数えきれないほどの後輩たち（もう成人している人もいます）や、大会で知り合った諸先生方との繋がり等、この20年間で得られたものは珠算の実力だけではありません。これは間違いなく私の誇りです。

目標が無い、やりたいことが分からないという方がいるならば、まずは何かを始めてみることを勧めてみてはどうでしょうか。「継続は力なり」という言葉があるように、ひよんなことから人生を変える「何か」に変わるかも知れません。

最後に、栃木県は社会人の珠算人口が著しく少ないです。私ひとりの力でどうにかなることではありませんが、自分の背中を見て大人になっても続けてくれる子どもが1人くらいは現れてくれるかも知れません。ならば、私は子どもたちが憧れる「怖い人」にならねば。だから、「もう少しやってみるか」。